



ネイチャーセンターだより

2021年8月号

新・いきもの図鑑



※根室市外で撮影。

ハネナガキリギリス (キリギリス科)

8月から10月の初めにかけてヒバリコース沿いの木道を歩いていると、「チョンギース、チョンギース」というかん高い鳴き声が聞こえてきます。この声の主は、ハネナガキリギリスです。

キリギリスの仲間は、北海道から沖縄まで分布しますが、そのうち、北海道のものはハネナガキリギリスという種類に分けられます。日当たりのよい草原や草地のやぶの中で見られます。ネイチャーセンターの周辺では、春国岱の海岸草原、センター前の前浜湿地、自然学習林では岬の草地で声を聞きます。

体の色が褐色または緑色で草の色と似ているため、声をする辺りを探してもなかなか見つけづらいです。

【参考文献】
木野田君公、2006. 札幌の昆虫。北海道大学出版。北海道。
飛山千恵子、1985. 決定版生物大図鑑昆虫1チョウ・バタ・トンボなど。株式会社世界文化社。東京。

7月の春国岱周辺のアオサギの記録

今年も春国岱周辺には、アオサギたちが集結しています。毎年、7月から9月まで多数のアオサギが滞在し、多い時は200羽以上が見られることもあります。

今年のアオサギの飛来状況は、例年と少し違いました。それは、7月上旬に数羽程度しか記録されなかったことです(表1)。2017年～2020年の記録を見ると、7月上旬は、いずれの年も20羽以上の群が見られ、多い時は60羽近くが見られています(表2)。少なかった原因は分かりませんが、今年の7月中旬以降は例年通り100羽近いアオサギが見られています。もしかしたら、繁殖地からの到着が遅れたのかもしれませんが。

今年は、アオサギの個体数がどのように変化していくのでしょうか。アオサギの動向に注目してみたいと思います。



トピックス

表1 2021年7月のアオサギの羽数

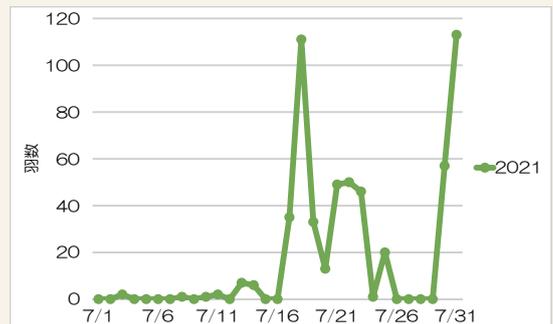
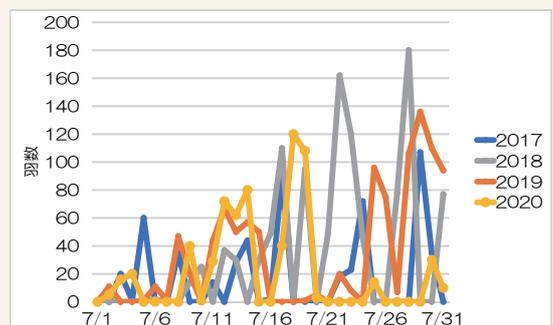
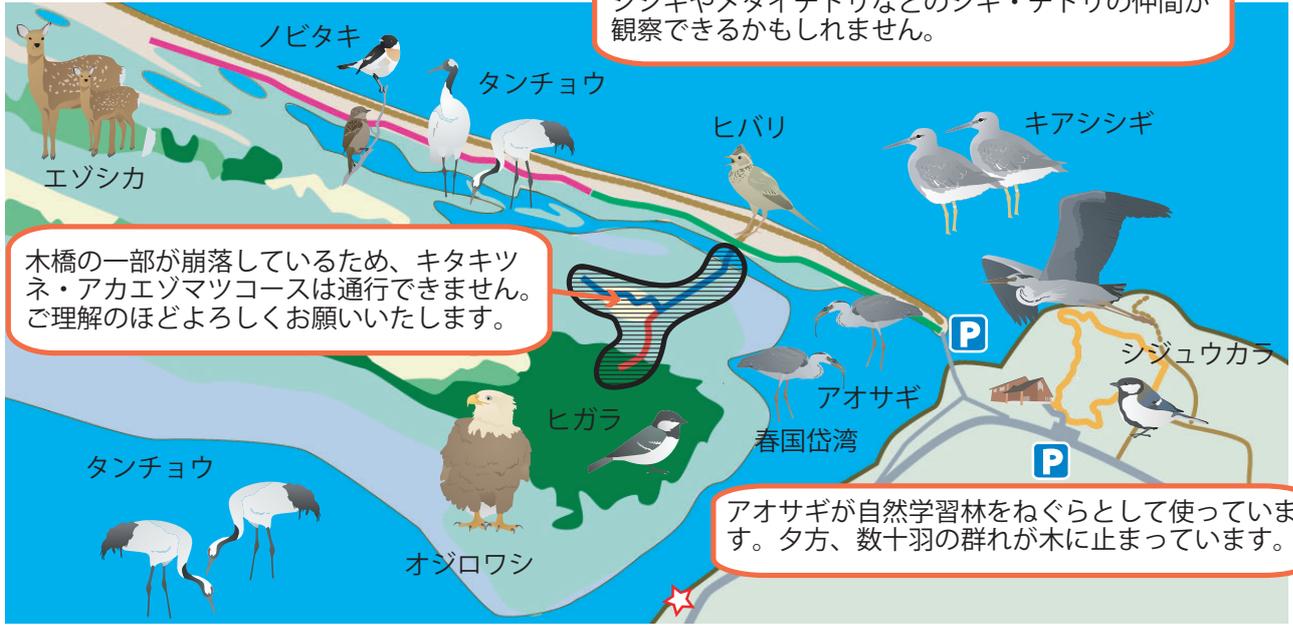


表2 2017年～2020年の7月のアオサギの羽数の記録



見どころMAP



干潮時間、風蓮湖や根室湾の干潟・砂浜では、キアシシギやメダイチドリなどのシギ・チドリの仲間が観察できるかもしれません。

木橋の一部が崩落しているため、キタキツネ・アカエゾマツコースは通行できません。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

アオサギが自然学習林をめぐらとして使っています。夕方、数十羽の群れが木に止まっています。

- 観察路(ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路(ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路(キタキツネコース0.8km、約20分)
- 観察路(アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- 観察路(小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路(春国岱上は車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)
- ★ 東梅野鳥観察舎(東梅ハイド)

<キタキツネ・アカエゾマツコースの補修の予定は、分かりしだいネイチャーセンターだよりやホームページ、Facebookでお知らせします。>
 <東梅ハイドからは、対岸の春国岱の森林の鳥や周囲の草原の鳥が観察できます。>

8月の見どころ予報

- 凡例
- ◎ ぜったい見られる (と思う)
 - ちょっと気をつければ見られる
 - + よく気をつければ見られる
 - ・ めったに見られない

オジロワシ	○	樹木の枝や消波ブロックなどに止まっているところが見られる。干潮時には、風蓮湖や根室湾の干潟に降りて、エサを探していることもある。繁殖の季節が終わったため、巣立った幼鳥が観察できるかもしれない。
タンチョウ	○	春国岱周辺の湿地や干潟などで見られる。ヒナを育てているつがいには、とても神経質になる時期なので、落ち着かないようすのタンチョウがいたら、近づかずすぐに離れてほしい。順調にいけば、8月下旬から9月上旬に親子で飛ぶ姿が観察できるかもしれない。
アオサギ	○	200羽前後の群が春国岱に集まり、干潮時に水辺でカレイやギンポなどの魚を捕らえる姿が見られる。夕方になると、群の一部が自然学習林に移動して休んでいることがある。
シギチドリ類	+	シギ・チドリ類は、春国岱湾の干潟や根室湾の干潟で採餌する様子が観察できることがある。過去、8月によく観察されたのは、メダイチドリ、ミヤコドリ、ホウロクシギ、キアシシギ、トウネン。
春国岱	野鳥(森)	鳥たちのさえずりは、あまり盛んではなくなるが、運が良いと、クマガラの鳴き声を聞くことがある。
	野鳥(草原)	鳥たちのさえずりは、あまり盛んではなくなる。湿原では、ノビタキやオオジュリンなどの巣立った幼鳥と出会うこともある。
	花	コシカギク、ナミキソウ、エゾオグルマ、エゾツルキンバイ、ハマニガナ、ハチジョウナ、ウンラン、エゾハコベ、コウゾリナ (西側シカ柵内: エゾフウロ、エゾカワラナデシコ、ノコギリソウ) など
自然学習林	野鳥	さえずりは、あまり聞かなくなるが、ウグイス、ミソサザイ、エゾセンニユウのさえずりは、時々聞くことができる。ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、キツツキ類(アカゲラ・コゲラ・オオアカゲラ)が見られ、時々巣立った幼鳥が見られることもある。
	花	エゾゴマナ、ゲンノショウコ、エトリカブト、ツリフネソウ、ミミコウモリ、ヨブスマソウ、オオダイコンソウ、ウツボグサ、チシマアザミ、クサフジ、ホザキナナカマド、ハンゴンソウ、ヤマハハコなど
危険生物		エゾイラクサ・ツタウルシには、さわらないようにご注意ください。マダニ・カ・ヌカカを防ぐため、虫よけ剤の塗布をおすすめします。

シジュウカラとコムクドリが巣箱を使いました

今年の春、ネイチャーセンター周囲の鳥や小型哺乳類の保護と観察のため、施設ボランティアグループ「スंक」の皆さんに3個の巣箱をかけていただいております(3月30日)。6~7月にこのうち2つが2種類の鳥により利用され、ヒナが巣立ちました。

○シジュウカラ【小鳥用巣箱を利用】

- 4月19日 <巣穴のぞき>成鳥1羽が巣箱をのぞいていた。
- 5月30日 <ヒナが孵化>成鳥が巣箱に餌を運び込むのを初めて確認。
- 6月10日 成鳥メス・オスが頻繁に餌を巣箱の中に運び込む。ヒナの声が巣箱の中からひっきりなしに聞こえる。
- 6月13日 巣箱の入口の穴からヒナが時々、顔をのぞかせる。
- 6月14日 <巣立ち>11時すぎから15時頃まで、成鳥が頻繁に餌運び。巣箱内からヒナの声が聞こえ、時々顔を出したり 入口の穴のふちにとまったりしていた。17時には巣箱からはヒナの声がせず、周囲のしげみから複数のヒナの声が聞こえていた。15時から17時までの間に巣立ったと思われる。



写真：シジュウカラの親鳥とヒナ(左側)。
6月14日撮影

○コムクドリ【中鳥・エゾモモンガ用巣箱を利用】

- 6月8日 <巣作り>朝、成鳥オスが巣材(青葉)を巣箱に運び込んでいるのを目撃。成鳥メスもそばにいた。
- 7月3日 <ヒナが孵化>成鳥メスが虫をくちばしにくわえて運んでいる姿と、成鳥メス・オスが巣箱に出入りしているのを確認。ヒナが孵ったと思われる(6/30~7/3の間にひなが孵った模様)。
- 7月4日 成鳥メス・オスの巣箱への出入りと、巣箱の中からひなの声がしているのを確認。
- 7月12日 <巣立ち>11時頃、巣箱からヒナ1羽が顔を出していた。12時過ぎに巣箱の外、観察窓のすぐ外で3ヶ所からヒナの声が聞こえ、1羽は姿を確認。



写真：コムクドリ(ヒナ)。
7月12日撮影

鳥たちに影響を与えないように、離れたところから短時間ずつ観察・撮影していたため、巣立ちの瞬間は観察できず、巣だったヒナの数を数えることができませんでした。今後は、巣箱の設置場所を工夫して行きたいと思っています。

参考文献 小池重人 . 2007. Bird Research News Vol.4 No.9:4-5.

しゅん くに たい 春国岱クイズ

どの仲間でしょうかシリーズ、その2。海岸の砂浜にじゅうたんのよう広がる植物、ウンラン。黄色くてかわいい花が、6月末から10月いっぱいくらいまで、とても長い期間、咲き続けます。海岸の植物特有の、多肉でぼっちゃんとした葉っぱも、愛らしいです。

さてこのウンラン、最近の図鑑では分類が変更されて、意外な植物の仲間に入っています。それは次のうち、どれでしょうか？

- ① オオバコ
- ② スミレ
- ③ ラン



春国岱ネイチャーセンターのイベント情報

●行事参加者募集!

◆フィールド講座「日本のラムサール条約湿地めぐり」

- ・開催日時: 2021年8月29日(日) 午後1時30分～3時00分 ・開催場所: 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター視聴覚研修室
- ・対象: 中学生以上 ・定員: 20人(先着順、8月28日(土)まで)
- ・内容: フィールド講座は、ラムサール条約湿地「風蓮湖・春国岱」の自然や生き物について専門家からお話を聞く室内講座です。今回のテーマは、ラムサール条約湿地について。公益財団法人日本野鳥の会は日本各地のラムサール条約湿地の登録や保全に関わっていますが、その中で4ヶ所の様々な湿地に携わった経験を持つ大畑さんから、それぞれの湿地の特徴・魅力や、保全活動についてお話を聞きます。ご紹介するのは、ウトナイ湖(苫小牧市)、東海丘陵湧水湿地群(愛知県豊田市)、葛西海浜公園(東京都)、片野鴨池(石川県加賀市)です。
- ・講師: 大畑孝二さん(公益財団法人日本野鳥の会 施設運営支援室長)
- ・申込方法: 電話、メールまたは直接来館により、下記必要事項を根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターへ。

必要事項: 参加ご希望の方のお名前、ご連絡先、中学生の方は学年も Tel: 0153-25-3047 E-mail: nemu_nc@marimo.or.jp

◆小鳥の小道ネイチャーウォッチング

- 秋の東梅自然学習林を散策し、野鳥や植物を観察します。
- ・開催日時: 2021年9月20日(月・祝) 午前9時30分～12時00分(雨天時は、9月26日(日)に順延。)
- ・集合場所: 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター
- ・対象: 3歳～大人(17歳以下の方は保護者同伴・または保護者の方に参加申込確認書にご署名いただけること)
- ・定員: 20人(先着順、9月16日(木)17時まで) ・参加費: 100円(保険代)
- ・申込方法: 電話、メールまたは直接来館により、下記必要事項を根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターへ。

必要事項: 参加者全員の氏名・連絡先・17歳以下の方は年齢も Tel: 0153-25-3047 E-mail: nemu_nc@marimo.or.jp



★新型コロナウイルス感染症の感染防止に十分な対策をした上で実施いたします。新型コロナウイルス感染症等の状況により、中止する場合がありますのであらかじめご了承ください



募集中!

ボランティア「スंक」

春国岱ネイチャーセンターでは、ボランティアグループ「スंक」で活動して下さるメンバーを常時募集しています。「スंक」は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的としています。月に1回、ミーティングを行い(基本的に最終火曜日)、自然学習林の樹名板を作ったり、イベントを企画・実施したりしています。

熱いながらもゆるい楽しい集まりです。ご興味のある方はネイチャーセンターまでお問合せください。

◆対象: 18歳以上

◆年会費(ボランティア保険料含む): 1,000円

フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 所定の場所での喫煙にご協力ください
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。またマダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください



クイズのこたえ ① ウンランはDNAの分析に基づく最近の分類では、オオバコの仲間(オオバコ科)とされています。キンギョソウも同じ仲間です。 出典: 梅沢俊, 2018, 北海道の草花。

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)

〒086-0074 北海道根室市東梅103番地

TEL. 0153-25-3047 FAX. 0153-25-8570

Eメール. nemu_nc@marimo.or.jp

HP. http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

Face Book. <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆休館日: (開館時間 9:00～17:00)

8月4・10・11・18・25日 9月1・8・15・21・22・24・29日

◆団体でご利用の方へ(事前予約制)

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録